

# 新型コロナウイルス感染症が拡大しているこの時期に いのちに関わるような病気で入院中の 患者さんのご家族にお伝えしたいこと



現在、世界中において新型コロナウイルス感染が拡大しており、病院を利用される患者さんやご家族には不自由をおかけしております。特に、入院病棟ではご家族の面会制限が行われており、入院している方にお会いになれないことで大変つらい思いをされていると思います。このリーフレットでは、現在の病院の状況をふまえ、病気と闘っておられる患者さんとそれを支えるご家族が「つながり」や「きずな」を感じつつ過ごしてもらうために、病院スタッフよりご家族にお伝えしたいことを説明したいと思います。

## 1

### まず、ご家族もできる限り感染を予防してください

現在、政府からも感染を予防するポイントが示されています。できるだけ外出や人との接触を減らし、こまめに手指をハンドソープで洗ったり、アルコール消毒し、会話する時にはマスクを着用してください。このことは、医療スタッフからの要請で病院を訪問する場合には非常に大切です。万が一、患者さんの状態が変化した場合にもすぐに病院に行けるように、普段からの健康管理は患者さんのためにもとても重要です。



## 2

### 病室に持ち込めるようなら、ご家族の写真やメッセージカードを用意されてはいかがでしょうか？

入院病棟は感染拡大の防止の目的で面会が制限されていることが多く、ご家族が患者さんにお会いすることが難しくなっています。しかし、患者さんはご家族のことが気になっておられると思います。もし病棟の許可があるようでしたら、ご家族の写真やご家族からのメッセージを集めて病棟スタッフに渡されてはいかがでしょうか。施設によっては、お子さんやお孫さんも参加して作成した寄せ書きを病室内に掲示することができる場合もあります。

## 3

### ノートのやりとりで想いを伝えてみてはどうでしょうか？



患者さんとのやりとりはなかなかタイミングが難しいかもしれませんが、また、携帯電話やSNSが得意でない方も少なくないと思います。昔、「交換日記」というものが流行った時代がありましたが、文字で気持ちを伝えてはいかがでしょうか。ただし、ノートを介しての感染が指摘されることもありますので、表紙をアルコール綿で拭ける丈夫なものが良いかもしれません。

## 4

スマートフォンやタブレットの使用については、  
病院スタッフと相談してください

面会に代わる方法として、患者さんとご家族がタブレットやスマートフォンなどによってコミュニケーションを行うことができるよう、病棟内でこれらの機器が使用できる環境を整えている施設もあります。また、アプリなどを使用し、声によるメッセージを届けることもできるようです。患者さんが得意でない場合には、病棟スタッフがお手伝いできるかもしれません。ご希望がある方はご相談ください。



## 5

## 患者さんのことをたくさん教えてください



医療スタッフはそれぞれ個性が異なる患者さんの希望に沿った支援をしていきたいと思っています。当然、ご本人からの希望にできるだけ応えたいと願っていますが、私たちがお話をうかがうだけでは十分ではないかもしれません。患者さんの性格、嗜好、大切にしておられること、気がりなどを是非遠慮なく私たちに教えてください。簡単にまとめて、メモなどでスタッフにお渡しいただくと、患者さんを深く理解するのに大変助かります。

## 6

## 可能ならご自宅での介護を検討されませんか？

入院病棟における面会制限は、残念ながらしばらくは続きそうです。したがって、人生の残り時間が短い時期にご家族と離ればなれになってしまうかもしれません。病棟スタッフや、がん相談支援センターの医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター等にご相談の上で、お住まいの地域の在宅医療の状況によっては、ご自宅での介護を検討されるのも一つの方法かもしれません。



現在、病院での入院治療においてはご家族に大変ご迷惑をおかけしておりますが、入院患者さん、ご家族にとってはかけがえのない大切な時間であることに変わりはありません。ご相談させていただき、ご家族にとっても悔いが残らないように支援させていただきたいと願っております。

